

PARK NEWS MAGAZINE

Vol.001 2021.February

みんなの  
公園愛護会



みんなの  
公園愛護事情







公園に関わる活動を  
みなさんと一緒に考え  
ともに支えあう  
きっかけ作りを  
今だから、はじめたい。



# はじめまして。みんなの公園愛護会です

こんにちは、一般社団法人「みんなの公園愛護会」代表の栳田里佳です。

私も、自分の暮らす街で友人たちと一緒に、公園愛護会の活動をしています。始めてまだ1年とちょっと、手探りのことも多いですが、“みんな”でやっている楽しくて、さまざまな驚きや発見があります。そして、活動してみると、実は何十年も前から日本各地の公園でボランティア活動をしている人たちが大勢いて、そのおかげで気持ちよく公園が使えていることに改めて気がつきました。

この公園ボランティアの活動にもっと仲間が増えたら、そして、みんながより充実した活動を続けることができれば、という思いでこの団体を立ち上げました。一般社団法人「みんなの公園愛護会」は、公園愛護会や公園でボランティアをしている人々をサポートする団体です。問題や課題を一緒に考えます。楽しさを分かち合います。

それぞれにあまり繋がり合うことのなかった、地域に根ざした公園愛護会が「どんな活動をして」「どんな課題を持ち」「どのように解決しているのか」を共有し、お互いのヒントにしていくこと。情報や経験・知恵のシェアが、地域の公園活動の未来をひらくカギだとしたら。長年続けてきた人の経験や知恵が、新しく活動を始め人の助けになることもあるでしょうし、新しい人のアイデアが活動をよりパワフルに楽しくすることもあってしょう。

みなさんの活動をより良くするアイデアや問題解決のためのヒントの多くは、きっと現場にあります。そのなかで私たちができることは、さまざまな情報や、活動の魅力を多くの人にシェアしていくことだと思っています。みんなが活動を互いに自慢したり、助け合ったりして楽しく盛り上がっていくためのきっかけを作ります。楽しく活動する公園ボランティア仲間が増えていくためのヒントを、調べ、視察し、体験し、インタビューして探した結果を、この「PARK NEWS MAGAZINE」やWEBサイトでみなさんにお知らせします。

みんな  
の公園  
愛護会





公園は国民の生活を劇的に変える可能性を秘めていると思います

もっと情報が増えると何かいいことが起こりそうですね

トークゲスト

公園大好き  
国土交通省都市局職員

一言太郎さん

みんなの公園愛護会  
代表理事 梶田里佳

A Talk in the Park 01 @中目黒公園

## 公園と愛護会の活動は多くの可能性を秘めている

### 公園ボランティアは人との繋がりを生む

公園事情や愛護会の活動などに詳しい人に、私、梶田里佳が気になるお話をお伺いするこのコーナー。記念すべき第1弾では、公園大好き国交省職員として活躍の一言太郎さんにお越しいただきました。15年前に造園職という主に公園を専門とする職種で入省されました。学生時代、ご自身も公園ボランティアをしながら、住民参加による公園づくりや、公園ボランティアとコミュニケーションについての研究をされていたんですね。

「はい、その舞台となったのがこの中目黒公園で、公園を作る前段階の住民参加のワークショップをきっかけに公園がつり関わっていきました。ボランティアが行われていることで公園の違反行為が大幅に減っていることを明らかにしたり、住民間で様々なコミュニケーションが発生しているというデータを取るなどの研究もしていました」

### 公園スペースは一人当たり6畳超

公園や公園管理について伺っていききたいと思います。

「はじめに、公園の可能性について触れておきましょう。昭和35年に都市公園法が作られて以来、日本の都市公園の面積は増え続けています。平成24年には国民1人当たりの公園面積が10平方メートルを超えました。これは、6畳を超えるスペースをみなさんが日本中のどこかの公園に持っていることになりました。だから、管理の仕方やルールの工夫など、公園の使い方を



上手にデザインしていくことで、みなさんの日々の生活が劇的に変わる、公園にはそのポテンシャルがあると思っています」

現状は、禁止事項のイメージが先行してしまい、良いアイデアを思いついてもやっていいのかわからない、進め方がわからないという人が多いように思います。

「公園の利用上のルールは、法律ではなく地方公共団体の条例で定められています。公園を汚してはダメという基本的なこと。よく禁止だらけだと言われるものは、公園ごとのルールであることが多いです。こういったものは、公園ごとに考えて変えていくことができます」

地域の公園のルールを住民が自分たちで変えることができるのは民主的ですね。「そのための仕組みとして、行政、指定管理者、愛護会などで協議会を組織して、公園のルールづくりや整備計画の策定などをできる公園協議会制度を法律で定めしました。このような仕組みを活用しながら、公園は自分たちのものなのだ、と地域の人の意識が変わっていくことも、この制度が作られた狙いのひとつだと思います」

### みんなの取り組みや情報を共有する

今回、神奈川県全ての自治体の公園担当課と、8つの自治体で活動する愛護会団体の皆さんにアンケートにご協力いただき、様々な声が集まりました。やりがいや実情、リアルな現場の課題が見えてきました。

「今後の活動としてやってみ

たいこと」という設問(グラフ⑦)では、イベントがいくつか挙がっていますね。こういうイベントは、新メンバーの勧誘活動など課題解決や次の展開へのきっかけに位置づけることが大切です。ただ、それを愛護会のみさんが単独でやるのは難しいかもしれません。

そんなとき、コミュニティデザインができる人のアドバイスや他の愛護会の事例が参考になるはずです。「みんなの公園愛護会」には、小さな公園が地域にとっての新しい価値を生み出していることを明らかにし、具体的にどうやって実現していったのかというストーリーが可視化される場となることを期待しています」

そうですね。まずはどんな人たちが、どんな取り組みをしているのか、情報が増えるだけでも、いいことが起こりそうですよ。では、最後に公園ボランティアの皆さんに



メッセージをお願いします。

「アンケートでは、行政側から維持管理コストの削減が愛護会の効果として挙げられていました。行政側から見たらそういう面もあるでしょう。でも、それは愛護会のみさんのモチベーションにはなりにくいのではないかと思います。個人レベルでも地域社会レベルでも、愛護会活動の中に「ご自身なりの価値を見出して楽しんでいただきたい。それが、行政側にもコスト削減以上の価値を気づかせるきっかけになると思います。そのために、ぜひ他の公園にも興味を持ってください。公園により多くの人が興味を持ち、人々の関係が深まり、活動を通じて地域の主体性や公共性が高まっていく。そんな社会づくりの入口として公園がイキイキと使われるようにしていきたいです。今後もそうした目線や感覚を、愛護会のみさんと共有していけたら嬉しいです」

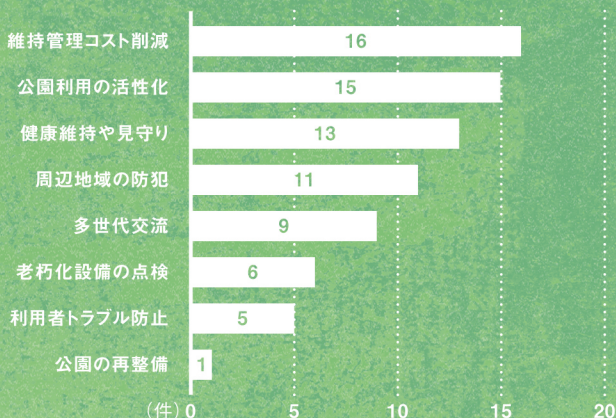
ありがとうございます。

公園を自分ごとを楽しむ人が増えるように、「みんなの公園愛護会」も頑張ります！



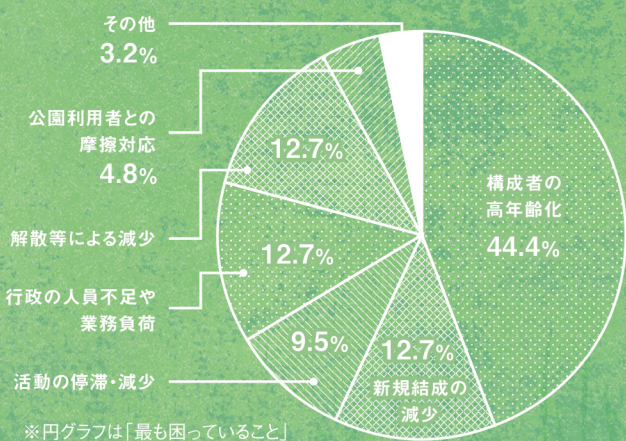
# みんなどう考え、どうしてる？ データで検証、公園愛護会の今。

## 1 自治体 愛護会がもたらしている価値や効果



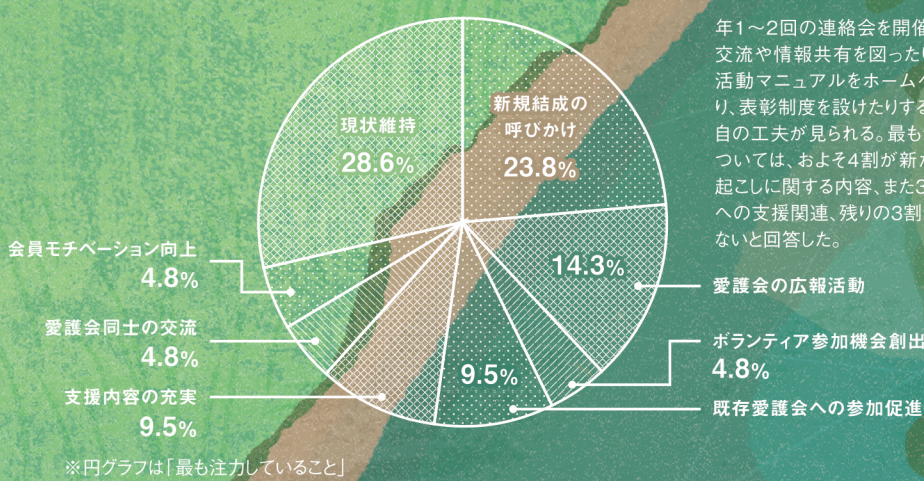
「公園愛護会等がもたらしている価値や効果についてどのようなことがありますか?もしも、なくなってしまうら、どのような損失がありますか?」という質問(複数回答可)に対して、回答したうちの73%の自治体が、街区公園の維持管理のコスト削減に有効だという結果であった。そのほか、地域住民による公園利用の活性化(68%)高齢者の健康維持やご近所見守り効果(59%)、周辺地域の防犯(50%)や、地域における多世代交流(41%)、老朽化しつつある設備の点検や小修繕(27%)、公園利用者や近隣住民のトラブル防止効果(23%)と続いた。除草や落ち葉清掃などコスト面のメリットともに、住民同士の交流の機会になっていること、また、住民自らが地域に関わることで愛着形成にもなること、地域の目があり人の手が入っていることで街の美化と防犯にも寄与していることが改めて確認できた。

## 2 自治体 愛護会が抱える問題



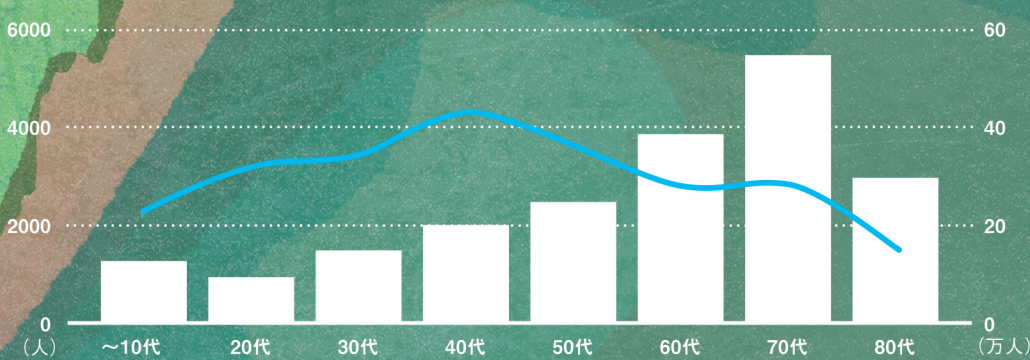
公園愛護会などの公園ボランティアが抱える課題(複数回答可)について、回答した自治体のうち80%が構成者の高齢化を選択。次いで会員の新規加入がない(57%)、愛護会との連絡・相談・広報などの人員不足や業務負荷(48%)、解散等による愛護会の減少(43%)、新規結成の減少(38%)、活動の停滞・活動の減少(33%)と続いた。その中で最も困っている課題について1つ挙げる設問でも、4割以上が構成者の高齢化であった。既存の愛護会員の高齢化が進むと同時に、会員の新規加入も少ないため、愛護会の活動が減少していること、さらには活動が存続できず解散に至る例も増えている現状が見える。また、行政側の人員および予算不足のため、研修や講習会等の技術支援等のサポートが難しいことや、各団体との情報共有の難しさ、自治会・町内会以外の新たな担い手探しについても言及があった。

## 3 自治体 自治体として力を入れていること

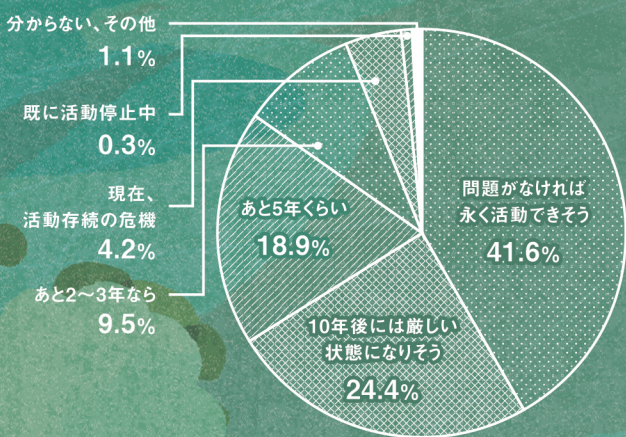


年1~2回の連絡会を開催し愛護会同士の交流や情報共有を図ったり、活動の様子や活動マニュアルをホームページで公開したり、表彰制度を設けたりする自治体もあり、独自の工夫が見られる。最も注力している事については、およそ4割が新たな担い手の掘り起こしに関する内容、また3割が既存愛護会への支援関連、残りの3割が現状維持・特にないと回答した。

## 4 市民団体 愛護会メンバーの年齢分布

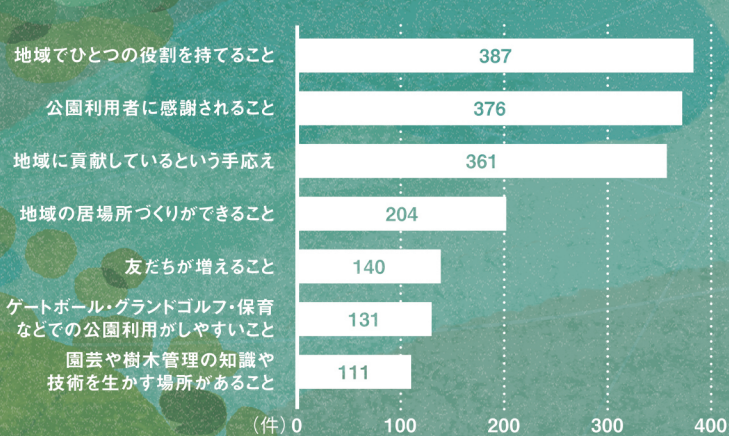


## 5 市民団体 あとどのくらい活動できそうか



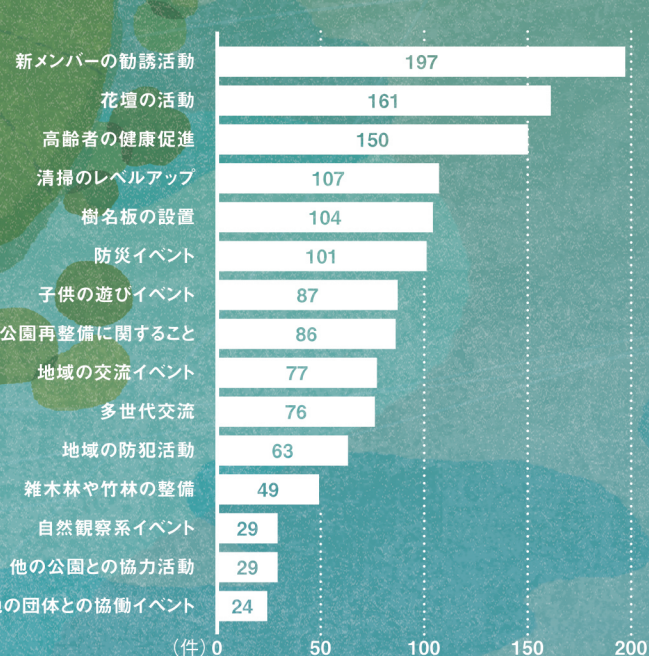
「高齢化や担い手不足が課題であると多くの自治体で耳にします。会としてあとどのくらい永続できそうだと思いますか?感覚で結構ですのでイメージを教えてください。」という問いに対して、回答者の4割を超える人が問題がなければ永く活動できそうと答えた。24.4%が10年後には難しい状態になりそう、18.9%があと5年後くらい、9.5%があと2~3年ならと回答した。現在存続の危機を迎えている団体や、既に活動停止をしている団体もあった。詳しく見ると、組織的に活動ができてきている団体は、永く活動できそうと回答しているのに対し、新しい人の参加もなく長期間限られた少人数で活動している団体は、見通しが良くない傾向にあった。

## 6 市民団体 活動のやりがいや嬉しいこと



活動のやりがいや、やっていて嬉しいことはどのようなことですか?(複数選択可)という設問に対して、最も多かったのは地域でひとつの役割を持つこと(57%)。次いで、公園利用者に感謝されること(55%)、地域に貢献しているという手応え(53%)と続いた。この他にも、公園や地域環境の美化、地域の防災に役立つ、普段話さずもない近隣の人と話す機会が出来ること、子どもの遊び場をきれいで安全にしたい、健康に役立つ、など様々なコメントがあった。一方、やりがいなど全くないという寂しいコメントもあった。

## 7 市民団体 今後の活動としてやってみたいこと



今後の活動として、できたらいいな、やってみたいと思うことは何ですか?(複数回答可)という問いに対して、最も多かったのは、新メンバーの勧誘活動(34%)だった。次いで花壇の活動(29%)、高齢者の健康促進(24%)、清掃のレベルアップ(22%)、樹名板の設置(16%)、と続いた。防災イベントや子供の遊びイベント、地域の交流イベントなども意欲的、公園再整備に関することにも積極的な団体が一定数存在することもわかった。現状維持、特になしや類似する回答もあり、とにかく現在の活動を継続することにフォーカスしている団体もいることが見えた。

公園ボランティア  
実態調査 神奈川

市民団体編



自治体編



この実態調査は、2020年9月から11月に神奈川県内の全ての自治体と1175の公園愛護会等ボランティア団体の皆さまにご協力をお願いいたしました。さらに詳しい調査結果をホームページでも公開しております。上記QRコードよりご確認いただけますので、皆さまの活動のヒントとして、ぜひご活用ください。



## 公園愛護会“みんな”の生の声

### 嬉しいこと

公園が常に清潔にされていると、ゴミを捨てたりすることが少なくなることがよく分かりました。以前は陰気だった公園が花壇を整えることにより、華やかな景色に変わりました。

自分の「居場所づくり」に最適な活動だと思います。

公園で若い子どもたちの笑いや声を聞くだけでも良いものです。たまに「ご苦労さん」と声をかけられた時はうれしい。相変わらず犬のおとしものは減りません。

花があることで皆さん笑顔で話しかけられ、十数年努力して来てよかったと思います。花を抜かれたり、ゴミを投げ入れられたり苦労しましたが、皆なで助け合い、がまんし、努力し、無理なく、工夫して花作りにがんばり、沢山のの人々に笑顔をお届けしてよかったと思います。

公園清掃を通じて町内会の人々が顔見知りになり、普段なかなか顔を合わす事ができないソバ達が清掃後に「オヤジ飲み会」をするようになりました。

公園掃除は平日働く私やママ友にはとても貴重なおしゃべりの時間です。子どもたちも10～20分くらい手伝ってからドッジボールなどをやって楽しんでいます。

90才のおばあちゃんとベアを組んで週2回散水、雑草取り等しています。お互い身体の事を言い出したらやってられない状況ですが、彼女は、気持ちがあれば地域の為になり、それが自分の為でもあるのを身体を使って教えてくれています。

近隣の保育園児たちとの植栽、園児からも喜んでお花の開花を楽しみにしてもらえます。

子どもたちが自分たちの遊んでいる公園を清掃しているのでゴミを捨てないようにしたり、ボランティア活動中以外も公園をきれいにしたいという思いを持ってくれることがとてもうれしかったです。

季節の花を地域の方にきれいだと褒められて、活動が地域に認められる充実感があり、手入れにも熱が入る。清掃を始めてから、タバコやごみの投げ捨てがずいぶん減ってきたが、まだ散見するのが残念。

高校のボランティア活動として、毎月有志のボランティアを募り、15～20人ほどで清掃活動をしたり、子どもたちと交流したりしています。

障害者の通所施設で、外に出る機会と、地域の役割が出来ること、そして活動を施設外にもつ事で、障害への理解を広めることが目的として、市の協力を得ながら、活動しています。

### 困っていること

高齢化に伴い、除草活動が難しくなってくる。

場所場所により、どんな植栽が適正か（花の大きさ、寿命、施肥、花後の後片付けの時期、どう処理すればいいか）、どんな花が手間もかからず、長持ちし、その場所に合う花か指導を。

経験ない所からのスタートなので、知らない事／効率の悪い事がまだまだ多い。公園メンテナンスについて詳しい方に簡単に相談できる環境ができると非常にありがたい。

年末清掃では多数の参加者があるので清掃用具を貸し出してほしい。

16年活動してきた中で最小限の道具類もあり、活動する形は出来ているが、とにかく参加者が広がらず将来の運営メンバーが育たないのが一番の問題。

みんなの公園愛護会



名称 一般社団法人  
みんなの公園愛護会  
所在地 東京都千代田区有楽町1-2-12  
KOKOビル3F  
連絡先 hello@park-friends.org  
代表理事 梶田里佳  
設立年月 2020年6月



WEBサイト  
[www.park-friends.org](http://www.park-friends.org)



LINE公式  
みんなの公園愛護会  
友達登録はこちらから！

みんなの公園愛護会では、公園を支えるボランティア活動をされている皆さんの活動事例をWEBサイトで紹介していきます。記事更新時のお知らせなど、LINE公式アカウントで発信していきます。ぜひ、みんなの公園愛護会をLINEで友だち登録してください。

